

## 令和5年5月24日 市長定例記者会見 会見録

### ◆司会

それでは、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

### ◆市長

はい。よろしくお願いいたします。まず最初に、昨夜、教育委員会から発表いたしました、清水区の小学校における教職員による不適切な指導という非常に残念な出来事がありました。このようなことが静岡市立の小学校で起きてしまったことは、学校の設置者である静岡市の市長としても非常に残念に思っております。今後につきましては、当該校の子どもたちの心のケアを最優先にするとともに、本市の全ての子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、教育庁に対して再発防止に向けて徹底した対応を求めたところです。続きまして、発表事項に移ります。発表事項は、社会の大きな力と知恵を生かした根拠と共感に基づく市政変革研究会の設置についてというものです。略して市政変革研究会と書いていいと思います。設置の趣旨ですが、今世界は大変革期にあります。地球環境の世紀です。そして、知能革命の時代を迎えている中で、地域社会では大きな、様々な問題があります。多様かつ多数の課題が山積をしていると言っていいと思います。これらの課題は一つ一つ個別に進めていけば解決できるというものではなくて、非常に複雑な要素が絡んでいますので、総合的な社会課題として捉えて解決策を探っていく必要があると思います。そして、科学技術が急速に発展をしております。知能革命の時代と申しましたけども、こういう社会に大きな新しい知がありますので、それは自前主義ではなくて、外からの知を積極的に入れるということが大事だと思っております。もう一つは共創、共に創っていくのをずっと私は市政の方針として申し上げておりますけども、この共創、一緒にやろうと思うためには開かれた分かりやすい市政が重要だと思っております。そのためには、市政の政策決定過程や市の持つ情報を分かりやすく使いやすく公開することで、社会の大きな力と世界の大きな知が動いて、それが社会に新たな知性、知をもたらすと思っております。このような考え方のもと、DX、デジタルトランスフォーメーション。GX、グリーントランスフォーメーション。それからBX、これはちょっと聞き慣れないかもしれませんが、最近少し一般的になってきましたブルートランスフォーメーション。BXですね。こういった社会経済の将来動向や最新の科学技術に精通した有識者を委員に迎えて、会議を発足していきたいと思っております。研究会についてはこちらのとおりですけども、これは静岡にある大学と、そして国内の大学の皆さんにいろいろお声掛

けをして、こういう方々に賛同いただいて集まってもらいたいと思っております。次のページになりますけれども、第1回の研究会を6月1日の9時30分から12時まで開きたいと思っております。場所はこの静岡市役所の中です。出席者については研究会委員、そして私と副市長以下関係職員になります。1回目は全体の趣旨説明をして、そして会長は法政大学の橋本教授になっていただく予定にしておりますけれども、進め方を説明いただいて、基調講演、そして各委員から意見を頂きたいと思っております。これだけの委員に参加をいただいて、毎回この方々と議論しても、発言時間5分とかそういうことになりますので、第1回目の会合というのは顔合わせということで、最初だけこういうふうに顔を合わせて、その後は分科会を設置して、例えばGX、DX、あるいは市民の参加システム、ウェルビーイングですね。防災、子育て、教育、こういった分野で分科会を設置して、その中で各委員に所属をしていただいて検討を進めていきたいと思っております。

第1回研究会以降の進め方というのがその下に書いておりますけれども、今申しましたような分科会を設けてやるわけですが、専門の委員が行政アドバイザーとして庁内の所管局等との議論を深めて、個々の政策、施策に反映をしていきたいと思っております。従って、委員会のときだけ聞くというんじゃなくて、日頃、例えば市役所にも何度も来ていただいて、あるいはオンラインで何度も意見交換をさせていただく、こんなかたちになると思います。そしてこの後、分科会だけではなくて、庁内に個別のプロジェクトチームを設置する予定です。例えば子育て、教育に関しては、大長副市長を子育て教育官ということで今任命しておりますけれども、大長副市長のもと、子育て教育政策についてこれから秋に向けてまとめてまいります。そういったところにこの分科会の委員も参加をしていただくし、新たな外部委員も入っていただくということにしたいと思っております。次に、設置の狙いを簡単にまとめておりますけれども。背景、適応法、強み、弱みというのは省略しますが、一つだけ申しますと、静岡市の強みと弱みは、まず強みは社会に大きな力があると思っております。潜在的なものも含めて大きな力がある。そして多様で深みのある産業力があります。しかし弱みがあって、これは研究専門技術サービス業の従事者の割合が少ない。政令市の中で17番目ぐらいだったと思います。20ある政令市の中で17番目ぐらいに少ないレベルになっております。そして市政の問題ですが、やはり世界の大きな知、知性の導入というのが不十分だと思っております。これから研究会設置の狙いということですが、まずこの研究会の設置によって市政の中に大きな知の導入を進めてまいります。その効果が市政にも表れますけれども、社会全体へ広がっていく、こんなふうに思っております。そして静岡市全体で共働、共創が進んでいって、それが共創、共に創る、静岡モデルというのができると思っております。

います。静岡に行くと面白い仕事ができるなということで、自然に世界から人が集まってくると。こんな方向を目指したいと思っております。私からの発表は以上です。ありがとうございました。

◆司会

それでは、ただいまの発表につきまして、皆様からのご質問をお受けをいたします。いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。会議設置の予算はどう賄われるのでしょうか。

◆市長

会の予算は、取りあえずは手持ちの中でやっていきたいと思っております。そんなに大きな予算がかかるわけではありませんので、まずは外部の機関に委託するわけではなくて、これは研究会の委員に対する謝金扱いですので。謝金というのは元々用意しておりますので、それで始めたいと思っております。そして、その中で具体的に取り組みを進む必要があれば、新たに補正予算を取るであるとか予算の組み替えとか、そんなことをやってまいりたいと思っております。

◆NHK

予備費ということですか？

◆市長

予備費というよりも、今ある予算の中でできると思っています。

◆NHK

公開ということですがけれども、そういった市政を議論する場として市議会があり、これまでも個別のテーマで、清水庁舎ですとかスタジアムの委員会というのにはありましたけれども、これはどういうふうに市民に公開されるんですか。

◆市長

市民に公開というか、その場でいろいろ公開をするということもあり得ますけど、第1回目はまだそこまでは考えておりません。今後、分科会をどういう形で公開するかについては検討していきたいと思っております。第1回の委員会はウェブ等で公開は今のところ考えておりません。

◆NHK

議事録の公開もないのでしょうか。

◆市長

議事録の公開はもちろんあります。議事録は全て公開をいたします。これは元々、社会の大きな知を取り入れていこう、それから情報公開をして分かりやすい市政をしていこうということですから、こういうものの中で隠すようなものは何も当然ありませんので、むしろ積極的に公開していくことが価値があると思っております。

◆NHK

清水庁舎とかスタジアムとか、昨年度まで田辺市政で行われてた委員会の中では、必ず市民委員という一般市民の公募による委員も入っていたんですけど、これはいろんな大学教授やコンサルですか、会社の経営者など、随分な肩書きを持たれてる方ばかりですけども、市民感覚とずれた話になってしまう恐れはないのでしょうか。

◆市長

市民感覚とずれたというのを何をもって市民感覚とずれたとおっしゃっているのか、そこの共通の考え、共通認識がないかもしれませんが、あくまでこれは先端科学技術を取り入れていこう、世界にある大きな知を市政に取り入れていこうということですから、この人たちの意見だけを聞いて何かをやっていこうというわけではないです。だから先程申しましたように、これまでどちらかという自前主義でやっていたものに対して、外からの知性をどんどん入れていきましようということですから、決して市民感覚とずれてるとは私は思っておりません。

◆NHK

この設置については、市議会各会派で了解を既に得られてる？

◆市長

はい。

◆NHK

市議会での議論との違いは何なんでしょう。

◆市長

あの市議会と、その質問の趣旨もちょっと理解を私が十分できてるかどうか分かりませんが、市議会というのは選挙で選ばれた方々が、その市民の投票をしてくださった方々を含めて、それを代表して議会の中でいろんな議論をされて、それを政策反映していくというものです。それと、世界の知を入れるということは全く別の問題だと思っていますので、市議会との関係を問うということ自身について、私はちょっと理解が難しいところではあります。

◆NHK

世界の知を問うとおっしゃいながら、海外の研究者などが入っていない。単に難波さんの知り合いを集めたというだけになってしまいませんか。

◆市長

私の知り合いを集めたわけではなくて、こういう方々と話をして、こういう方々がいるのではないかとということで、こういう方々をしておりますし、これからまた必要に応じて、今も調整中の方々もおられますけれども、そういう方々にも入っていただきたいと思っております。もう一つ、海外のというお話ですけど、海外の方に参加をしていただくということではなくて、この方々は日本国内の知識で仕事されてる方々ではないわけです。世界を見て、世界の動きはこういうふうになってる、世界の研究者はこんなことを考えているということを理解をした上で、今こういうお仕事をされていると理解をしております。従って、この方々のお話をお聞きすれば、世界の知が取り入れることはできるというふうに思っております。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。会長を橋本さんにされた理由は何でしょうか。ブルーエコノミーに力を入れたいということでしょうか。

◆市長

橋本先生も含めて、これらの方々ですけれども、地元の大学の先生方は別にして、研究者兼行政関係に関わった方ということで私は任命をして、この方々に加わっていただきたいと思っております。そういった点で、橋本先生は清水東高の出身で、そして通産省にお入りになって、後の経済産業省ですね。その中でオープンイノベーションをずっと研究をされていた方で。そしてその後、東京工業大学でオープンイノベーションについて講義をされ、今も法政大学でオープンイノベーション、つまりオープンイノベーションというのは世界の大きな知をどうやって取り入れていくかということですから、これの専門家だと思っております。地元の先生ということとオープンイノベーションの専門家ということで、橋本先生にお願いをしたいと思っております。

◆司会

読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。これは聞き漏らしたのかもしれませんが、実際に研究会の設置期間的なものは考えてらっしゃいますでしょうか。いつどのタイミングで政策に反映していくとかいう時期はありますか。

◆市長

これは適宜、反映をしていきたいと思っております。例えば子育て、教育については、この後分科会あるいはプロジェクトチームをつくって、その中で政策を取りまとめていきますので、遅くとも秋には一つの成果は出したいと思っております。それ以外についても順次効果は出ていくと思います。例えば市役所の中のいろんな仕事の仕方にDXを取り入れるということであれば、今の市のDXへの取り組みがどうなっているのかを見て、ここはこう変えていったらいいんじゃないかというのが幾つも出てくると思いますので、そういった面でいうとすぐに効果が出てくる可能性はあると思っております。

◆読売新聞

来年度の当初予算案への反映を必ずしも意識したものではないということですか。

◆市長

本格的に取り組むためには来年度予算が必要だと思っております。そのためにも予算の検討というのは秋口からは本格化しますので、そのためにも秋口までに

は一定の成果をこれらの分科会の分野の中で出していったらいいんじゃないかということを取りまとめていきたいと思っています。

◆読売新聞

あと、この研究会の期間は必ずしも今年度で終わるものではないという認識ですか。

◆市長

これはずっと続くと思っております。研究会という形をとってますけど、どちらかという行政アドバイザー的な形になってますので、ずっとこの方々にいろんな意見を聞きながら市政を高度化していくっていう。根拠と共感に基づく市政と言ってますけど、とりわけ科学的根拠、データに基づく根拠、それに基づく市政を運営をしていくためには、こういう方々の私見を取り入れるのが非常に大事だと思っております。

◆読売新聞

すいません、細かい質問ですけど、名前を研究会という言い方にしたのは何かこれは意味があるんですか。その例えば審議会とかなんとか、検討会とかではなくて。

◆市長

審議会となると、何かこちらから政策を出し、案を作って審議をしていただくっていうかたちが多いと思うんですね。委員会となると、これは例えば特別なテーマがあって、それに対する委員会があるってというのが普通の思いますので、これは、これからどういうふうに市政を変革していくかを研究をしていって、出てきたものを一つ一つ実現をさせていくということですので、まずは研究会という形にしております。

◆読売新聞

ありがとうございました。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。別紙1の3の静岡市の強みと弱みのところなんですけれども、弱みのところで研究専門技術サービス業従事者の割合が少ないと、世界の大きな知の導入への積極性が不十分と書いてありますが、それぞれ何か根拠となる、例えば政令市の比較データですとか、そういったものはありますでしょうか。

◆市長

政令市の比較データがありますので、これについては後ほどでも、ちょっと時間かかるかもしれませんが、お出ししたいと思います。

◆テレビ静岡

一方の強みのほうで、社会に大きな潜在的な力があるということですが、これは具体的にはどういったことを感じられて、ここに明記されているのでしょうか。

◆市長

これは本当に実感ですね。皆さん、いろんな思いを持っておやりになっていますので、そこは社会に貢献をしたいという思いは、非常に静岡市は強い、静岡市民強いというふうに思っています。それは個人的な実感かもしれませんが、そういった個人的実感と言ったほうがいいのかもしいです。データでもって、他のところに比べて大きな社会の力があることは示すことはできませんが、私の個人的な実感として思っております。

◆司会

その他、いかがでしょうか。では、発表案件につきましては以上とさせていただきます。

◆市長

はい、ありがとうございました。

◆司会

引き続き、幹事社質問をお願いをいたします。日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞

幹事社の日経新聞です。よろしく申し上げます。来月で富士山関連の世界文化遺産登録10周年を迎えますが、現状、三保松原の観光というのは、正直マネタイ



ズという意味であまり十分とは言い難い状態と私は考えているのですが、静岡市として新たな観光集客策などを打ち出す考えはありますでしょうか。

◆市長

観光の集客策については、はっきり申し上げると今の状態ではよろしくないと思っています。具体的にいうと4次総の中で書かれていますけども、賑わいづくりってというのが非常に多いんですね。賑わいづくりってというのは観光地づくり、観光地に人を呼んでこようっていう旧来型の政策に近いと思っています。それで静岡市もDMOという、Destination Marketing、それから Management Organization というDMOをつくりましたけども、するが観光企画局（正しくはするが企画観光局）ですけども、それは観光を活用した地域づくりをしていこうというのがDMOの設置の目的になってるんですけども、そういう観光を核にした地域づくりという取り組みがまだまだ弱いなと思っています。従って、観光の政策についてはもう一回練り直しが必要だと思っています。DMO、するが観光企画局（正しくはするが企画観光局）の活用も含めて練り直しが必要かなと思っています。それから、インバウンドについてほとんど政策が出されていないんですね。静岡市において。インバウンドをどうするか、コロナの中だからあんまり議論してこなかったのかもしれませんが、これから間違いなくインバウンドをどうするかっていうことは非常に重要なものになりますから、インバウンドの集客をどうやっていくのか、魅力を高めていくかということも大きなテーマになりますので、観光政策については相当な見直しが私は必要だと思っています。

◆日経新聞

相当な見直しという話が出ましたが、節目に全て合わせる必要はないとは思いますが、来月で節目を迎えるという段にあって見直しが必要、つまり何か施策を打つという方針があるのか、それともそこは10周年にはとらわれる必要はないというふうに考えるのか、どちらでしょうか。

◆市長

私が市長になったのは4月13日ですので、あまり最初に走りすぎると大変なことになりますので、これは観光については課題ありということをお伝えをして、これから1年ぐらいかけて見直していかないといけないんじゃないかなと思っています。観光についての政策って、非常にとりわけマーケティング政策、あるいはブランドづくりみたいなところは非常に重要になってきますから、それはそう簡単にこれでいっちゃおうっていうふうにはできるようなものではな

いと思ってます。インバウンドの集客もそうです。従って、繰り返しになりますけど、しっかりと時間をかけて検討する必要があるなと思ってます。これについては先ほどもお話ありましたけど、ある種、新たな委員会を設けて、いろんな方々の私見を得ながらやっていかないといけないかなと思ってます。先ほど申しました研究会とはちょっと違う形ですよ。研究会はどちらかという、科学技術的なDXだとかそっちを入れていくことですから、観光についてもデジタルの技術を活用するのは必要ですけど、ちょっと性格違いますので、観光についてはプロジェクトチームをつくって、そして政策の練り直しをする必要があるなと思ってます。

#### ◆日経新聞

ありがとうございます。2点目も同様の質問のようになってしまいますけども、先週、オクシズの観光予約サイトがオープンして、一部予約できるようになったというところがありますが。過疎地域といわれるような地域、中山間地を持つ静岡市として、雇用を生み出すであったりとかいう面っていうのは非常に重要だと思うんですが、オクシズの観光促進の期待と、今後オクシズそのものに対して必要になると思われる施策の方向性みたいなものがあればお聞かせいただければと思います。

#### ◆市長

はい。まず、オクシズについてはものすごく魅力的なところだと思っています。オクシズというネーミングも私は非常にいいなと思っています。ただ、オクシズだけでやると焦点がぼけて、ブランドづくりもしにくいなと思ってます。ある種、言葉は悪いですけど、どこにでもある里山地域っていう感じになってしまって、じゃあオクシズって何なのっていうところにまで踏み込めていないと思うんです。オクシズという言葉の響きは悪くないと思うんですけども、じゃあオクシズって何ですかっていうイメージづくりはできていないと思っています。先ほどお話あった予約サイトですけども、これは今ある施設をもっと使いやすくするというので、現状の延長上の取り組みとしては非常に重要だと思っています。ただ、現状の延長上の取り組みだけでオクシズが活性化するとは私は思っていないです。新しい取り組みが必要だと思っています。具体的に何かというと、例えば今日、ある新聞で梅ヶ島のサウナの話が出ましたけども、これは地域資源を生かした素晴らしい取り組みだと思っています。恐らく梅ヶ島にああいう形で投資が入ったのは、私の記憶でいうと多分40年ぶりぐらいじゃないかなと思います。同じく、さっき三保の話ありましたけど、三保の内浜にウラレナっていうレストラン兼宿泊施設ができましたが、三保にあれほどの投資、あれほど

って非常にちっちゃいんですけど、ああいう投資が入ったのも多分40年ぶりぐらい。こういう施設ができると見え方が変わるんです。これ、すごいよねと。つまり梅ヶ島の今までとイメージと違って、梅ヶ島ってすごいよねという新しい景色、新しい世界が生まれてくると思うんです。そういうことを一つ一つやっていくのが非常に大事かなと思います。従って、この梅ヶ島のサウナのようなのは一つの大きな例になると思います。例えばですけども井川でいうと、井川湖の湖畔に、よくいうオーベルジュっていう宿泊型のレストランが1軒できたとすれば、これも恐らく世界が変わると思うんです。これが大きな施設じゃなくて1日に2室だけとか、そして素晴らしい料理を提供する、ただし値段は結構高いというのでやっていけば、井川湖のあたりって本当に素晴らしい景観ですから、これでまた世界が変わってくると思うんです。従って、そういうのはオクシズの各地域の中で、色々大川は大川で素晴らしいところがあるし、そういう一つ一つを見ていくと、そこで、おっ、というものができていくことによって新しいオクシズのブランドイメージができるんじゃないかなと思ってます。長くなりますけど、個人的にはSDGs 絶景グランピングというのを進めていきたいと思ってるんですけど、やっぱりこれからはサステナブルツーリズムですから、SDGsを意識した形で、そして静岡は至るところに絶景がありますので、その絶景を生かすためには、あまり固い宿泊施設というよりも、グランピングで豪華なキャンプ施設、そういうものをつくっていくというのが非常にこれからの流れとしては期待できるんじゃないかなと思ってます。

#### ◆日経新聞

ありがとうございます。細かいところで1点なんですけど。さっきの先ほどの二つの質問の中で共通して聞こえるようなふうに思えるのが、いわゆる魅力をつくるっていうところは両方とも言ってたと思うんですけど、それに対して、市側がいわゆる箱ものみたいなものをつくるのではなくて、民間の投資を呼び込みたいという考えはどちらにも共通してると思うんですけど、箱ものをつくらずに民間投資を引き寄せるための施策っていうのを市で考えていくという方向性は間違っていないのでしょうか。

#### ◆市長

それは、そのとおりです。ただ、全体としてのブランドイメージをつくっていかないといけないと思ってるんです。静岡は素晴らしい自然と景観と温暖な気候、そして食の魅力、これを生かしていくというのがまず基本的な要素とあって、それをどう使っていくか。これはやっぱりサステナブルツーリズムがこれからの主流になりますから、もっというとサステナブルだけではなくて再生可能で

すよね。リジェネラティブって口が回りにくいんですけど、リジェネラティブツーリズムって最近使われてますけど、そういう再生可能な観光というのも今主流になりつつありますから、そういうものを静岡は出していく。つまり次世代型の観光、ツーリズムには静岡はぴったりだと思ってるんです。それを政策として表に出して行って、それにブランドイメージをつくっていくことの上でいろんな施設があると、いろんな投資が入ってくると、実際に一つの観光地域づくりができるかなと思っています。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

では、ただいまの幹事社質問に関連したご質問があればお受けをしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、その他のご質問をお受けをしたいと思います。いかがでしょうか。その他のご質問、いかがでしょうか。では中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。県産の一番茶の生産量が過去最少になったという報道がありました。市長は就任会見の際に、新茶の初取引に参加した後の就任会見で、過去の延長にない取り組みが本当に必要だと危機感をあらわにしてらっしゃいましたけども、どんな点に危機感を持ってらっしゃって、どんな政策が必要だと考えていますか。

◆市長

生産量かける価格でお茶の収入が決まるわけですよ。今回、平均でいうと生産量は2割落ちて、価格は1割上がったということは、全体としての収入は下がっているということですね。これが例えば100のレベルが今のような形で1割下がるのであればまだ持続可能なわけですけども、ほぼお茶の生産者の方々は限界状態になっていて、これ以上もう収入が下がるのであればとても続けていけないというような状況まで追い込まれています。従って、今までの、100のレベルがあったときの下がり具合だと今までの延長上の取り組みでも大丈夫ですけど、もう限界点に来てるので、つまり限界点に来たことを意識をした上でどういう政策を打っていくかを考えないと、もう持続できないと思っています。場合によっては、生産量を減らしても、全体としてですよ、全体として生産量が減っても価格が上がっていけると、それで生産を続けていけるって

うことも出てきますから、そういうことも含めてやっていかないといけない。じゃあ価格を上げるためにどうやっていくかといういろいろなことがありますけど、やっぱりこれはマーケティングのほうをしっかりとやっていかないと。消費者、高い値段で買ってもらわないといけないですね。そこをどうするのか。買ってもらうためには生産側で、例えば有機をもっと増やしていくとかいろいろなことがありますから、そういうことも含めてこれから検討したいと思ってます。今日は発表できてませんが、茶業に関する研究会もまもなく立ち上げていきたいと思っていますので、その中で具体的にどうするか。そういう研究会なり委員会をやっていくと何となくきれい事が並ぶケースが多いんですけど、もうきれい事では済まない、限界状態にあることを意識して、本当にこれをやらないとおしまいだぐらいの危機感を持ってやらないといけないと思っています。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。市長にリニア問題について、2点伺います。まず1点目が、川勝知事と山梨県の長崎知事が南アルプストンネル内のボーリングを巡ってすれ違いとなっている件で、検討時の話であると思うんですけども、話題となっているのが静岡市内の話ということで、市長としては県境 300メートルより先、ボーリングをストップすべきかどうかというのと、あと県同士のやりとり、これについてどのようにご覧になっているか教えていただきたいです。あと2点目が、静岡県側から山梨県内にある水でも水脈次第で静岡県に湧き出る可能性があるという議論がされていますが、山梨県に現状ある水というのは山梨県のものなのか、それとも両県のものなのか、難波市長の見解を聞かせていただきたいです。

◆市長

1点目のボーリングについてですけども、今ボーリングについて 300メートル前で止めるかどうかというのがありますが、私は個人的見解をはっきり申し上げますけども、ボーリングについては山梨県境まで掘ってもいいと思っています。これは副知事時代から一貫してそのように思っています。従って、今、300メートル前で止めるという議論については私は賛同をしております。

ません。ただし、山梨県内のお話ですから、先ほど静岡市内のって話ありますけど、静岡市内で行われている工事ではありませんので、私があえて積極的に申し上げる必要はないと思いますけど、今聞かれましたので、これは市長としてではなくて、ある種、工学をやってきた者としての個人的見解として、県境までボーリングは掘ってもいいと思っています。それから今、水がどうかということですけども、なかなか水を引っ張る、今県境までトンネルを掘っていくと静岡県内の水を引っ張るっていうのがなかなか理解しにくいと思うんです。それはどういう意味かというのをちょっとだけ時間を頂いてご説明をすると、風呂に水が張ってあると思います。風呂の底っていうのは水圧がかかってます。水圧がかかってるっていうことは、静岡県内だとすると、静岡県内のトンネルの位置からずっと上に山の頂上、地表面がありますから、その間に地下水位があって、その水圧が地下にはかかるわけです。岩の切れ目だとかそういうことで、風呂とはちょっと違いますけども、真っすぐかかってるわけではないですけどやっぱり水圧はかかってるわけです。風呂の底にふたがありますよね。あれをぽんっと抜いたときにどうなるかっていうと、風呂の底の先は大気圧ですよ。あれと同じ現象がトンネルを掘ると起きるわけです。ちょっとひっくり返してみると、あれは風呂の底だから上下になりますけど、それを横にやってみると分かると思うんですけど、結局、こっち側が静岡県で、こっちが山梨側としてるとき、ここで大きな水圧がかかってるわけです。ここにふたがあるわけです。このふたをぽんっと抜いたときにどうなるかということ、当然こっち側にある水が出ていくわけです。こっちは大気圧ですから、こっちは水圧がかかってる。そういう現象が起きるわけです。だからそれは山梨県側の水だとか静岡県側の水だとかいう問題じゃなくて、そういう現象が起きるということです。従って、150平方メートルもあるような大きな断面のトンネルを掘っていくと水を引っ張る可能性があるというのは、それは副知事時代から私が申し上げてきたところですよ。だから、本坑の大きなトンネルだとか先進坑みたいな大断面のトンネルについては、ぎりぎりまでやるとどうしても今のような現象が起きるから気を付けたほうがいいですよっていうふうに言ってきました。しかし今度は、ある種、ちょっとこんなもんですよ。つまりボーリング孔ってこんなもんだと思います。これがここにきてもある程度引っ張りますけど、ここを止めますからそれほどの量じゃないわけです。これが300メートル向こうにあるときに、ちょっと想像したら分かりますよね。このくらいの口径のものが300メートル先にあるときに、風呂の水の底をぽんっと抜いたときに300メートル先まで水を引っ張るっていうことは考えられないですよ。従って私は、このくらいのものであればここまで掘っても何も問題はないというのが私の考えです。もう一つ、ありましたっけ。

◆静岡朝日テレビ

もう一つが、山梨県内にある水でも水脈次第で静岡県に湧き出る可能性があるという議論がなされていることについて、山梨県に。

◆市長

それは今のでいいですか。

◆静岡朝日テレビ

はい。なので、ありがとうございます。

◆市長

一応、お答えに両方なっていると。

◆静岡朝日テレビ

そうですね、ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。前回、時間の関係で十分伺えなかったところなんですけれども、海洋ミュージアムについて、難波市長は市長である以上、責任をもって契約に基づいて金額を下げることを前提にした交渉はすべきではないとおっしゃいましたが、そのときに候補者時代に言っていたこととは立場が違うということをおっしゃいました。

とはいえ、選挙というのは候補者が述べたことに基づいて有権者が判断して投票するものです。候補者時代には金額の圧縮ということができると、自分はアイデアがあるとおっしゃってました。なおかつ市長に就任されてからも、就任会見でも費用の圧縮はできる、市の負担が巨額すぎるということはおっしゃってました。これをあっさり覆したのは何なんでしょう、現実には直面したということなんでしょう。

◆市長

覆したつもりはなくて、行政判断というのは何かということですけども。これは法律に基づき、あるいは規則に基づき、契約に基づき、きっちりやっていくというのが行政判断としては極めて大事だと思っています。行政判断として

契約書が既にある、その金額は決まっているわけですから、その決まっているものを前提として交渉するというのは当然のことです。その一方で費用を下げるというのは必要だと思っていますから、交渉によって費用を下げてくださいと私は思っています。従って、これから交渉を進めていくことによって費用は下げられると思っていますが、あくまで契約書という存在がある限り、それを個人の思いでもって破棄をして下げるなんてことをしては、それは行政としては適切ではないと思っています。従って、市長に就任前、そして市長の就任会見、そして現在も考え方は全く変わっておりません。全く変わっていないというのは、費用を下げるべきだということについての考え方は変わっていませんが、行政として相手方と交渉するときには何を条件として交渉するかということ、契約があるわけですから、その契約書を前提に交渉をするということですから、それで今やろうとしてると。金額を下げるということについて、下げるんじゃなくて結果として下がるというふうになるようにしたいと思っています。以上です。

#### ◆NHK

下がることを前提とした交渉とせずとも、金額を下げることは念頭に置き、目指していくということかと思えますけども、下げるというのは、結果的に想定を大きく上回る入館者数が出て、プロフィットシェアという言葉は海洋は使ってまずけれども、10 億円、その利益分は事業者だけでなく市も折半するというプロフィットシェアのことをおっしゃっているのか、それとも 169 億円という費用自体、その本体を下げることを目指していくということなのか、どちらでしょうか。

#### ◆市長

それはこれからの交渉です。契約書がある以上、その契約書に基づいてやるわけですけども、これで交渉がうまくいった場合には契約書の変更も可能になると思います。交渉がうまくいけばですよ。そのときにプロフィットシェアのかたちでいくのか、それとも下がった分はそのまま費用として減少させるのか、費用として減少させたもので新しい契約をするのかというのはこれからの交渉の問題だと思っています。従って、現時点でこういう契約にするんだということを前提に交渉すべきではないと思っています。

#### ◆NHK

プロフィットシェアは開館後の収益によっておのずと、それは田辺市政時代に決めた利益の折半というルールであって、それはもう既定路線ですよ。難波さんが改めて交渉するということは、その手前の開館手前で費用を下げることは



念頭に置いて交渉するということですね。

◆市長

そうですね。念頭に置いてですね。ただし、それを前提としてはいないということです。

◆NHK

それと展示内容の見直しについても、やはり田辺市長の以前の発言ですとか、あと市が示した要求水準書を見ても、難波さんが前回おっしゃったようなDXの活用、映像の活用、JAMSTECとの連携、これは全て明記されています。すると、難波さんが変えようとしてるのは何なのか。生体展示の比率なのか、何なんでしようか。

◆市長

それは具体的にこれからお話をしてからですね。つまり前の計画書にそう書いてあったから実現するということはあんまりないんですよ。書かれてあるってということで、実際にはあまり契約内容というか中身は変わらないというのが普通だと思います。これは大浜海浜公園も同じでしたけれども。従って、やはり明確な意思を持って、その部分を変えていくんだという意思を示すことが極めて大事だと思っています。どのくらい本気でやるか、それを示すかどうかですね。従って、こういう会見の場、あるいはいろんな発言の場でそこをはっきり申し上げてるということは、私自身はそれだけの覚悟を持ってやるつもりだということを相手方にお伝えをして交渉させていただきたい、そういう意味であります。

◆NHK

分かりました。もう一つだけ。前回見直しをおっしゃったのは海洋と大浜とスタジアムの三つでしたけれども、アリーナがありませんでした。静岡市として熟度が、行政的な検討がより進んでるはずのアリーナについて、見直しを今、示されないのはなぜなのでしょう。

◆市長

アリーナについては今、中身で取り扱いを検討しています。元々あれは俗称誘致案件、つまり来ていただく案件、投資をしていただく案件という整理をされていたと思いますが、これが今年になってか、いつになってかはちょっと確認を私できていませんが、それをPFIで進めようという動きが出てきていました。

P F Iというのはこれは誘致案件ではないんです。公共がやるものについて、公共的にやる必要があるものについて、プライベートのファイナンスを活用するだとかそういうことが、あるいは民間事業者の知識だとか資金力を活用していこうということですので、全然違うんです、考え方が。今までは実施するのは民で、市は下支えをするというところから、今度は逆で、実施主体は市、それに対して民の資金力だとか知恵を入れましょうというP F Iとは全く別なわけです。それはもしそういうふうにするのであれば、社会の合意形成が私は必要だと思っています。それだけの方向転換をするのであれば。ただ、そういう方向転換ができたということ、私、まだ確認できていませんので、もう一度、それは民間の誘致案件、民間主体で実施をして、それを市政が下支えするのか。逆で、公が実施をし、それを民の知恵と資金力を活用するのかの整理をし直さないと、あるいはその中間もあると思いますので、それをやらない限り、軽々にあのプロジェクトを進めるということにはならないと思っています。従って、今そこは企画局がやっていますので、企画局でいいですよ。企画局がやっていますので、企画局と今議論をしているところです。ちょっとそこはあまりにも大きな方針転換ですし、そして議会の理解がどこまで、あるいは市民の理解がどこまで得られたという状況には私はまだなっていないと思っていますから、そこは丁寧に検討して、そして社会に、しかるべきタイミングで社会にお示しをして、それについてのご意見を伺いたいなと思っています。

#### ◆NHK

すいません。これは確認だけですが、私はてっきり、あくまで誘致案件、民間主体が基本的なベースの考え方というのが諸用な条件かと思ってましたけども、今のお話聞くと、市が、公が主体になることも選択肢としてフラットに考えていくということでしょうか。

#### ◆市長

考えていこうとしていたので、企画局が。それはちょっと大きな、あまりにも180度違うわけです。それはあまりにも大きな方針転換なので、このままするのはまずいんじゃないですかと。もう一回そこをちゃんと整理をした上で、そして、関係者の理解を得た上でやらないといけないんじゃないですかというような状況に今なっています。従って、その整理は少し時間かかると思います。

#### ◆NHK

難波さんの中で、公が主体、民が主体、どちらにすべきかという考えは今のところは示さない？

◆市長

示さないです。そこはまだ民間事業者の方々の意向も十分確認できていませんし、あるいは施設内容をどうするか、あるいは採算がどう取れるかっていうこと、それについての検討が必要だなと思ってます。サッカースタジアムの場合にはものすごく複合的な利用をしないと、ごめんなさい、スタジアムですね。清水の東口にスタジアムをつくるのであれば、ものすごく複雑な検討をしないとなかなか厳しいと思いますし、が、アリーナについては比較的採算の問題だとか検討しやすいと思うんです。例えばバスケットの試合だけじゃなくて、コンサートをどのくらいするとどのくらい収入が得られて、採算がどう回っていくかっていうような話は非常にしやすいですし、それから場所もある程度、例えば東静岡に住んでるのであれば、交通計画はどうするのかということも詰めていけば、中身についてはある程度分かっていくと思うんです。だから、ちょっと今整理が先ほど必要だと言いましたけど、逆にいうと、あれの場合は、このくらいかかる、このぐらいの施設になるというのを市がある程度示すというのも方法かもしれないです。その辺はこれからどういうやり方をするのがいいのかっていうのは検討をしっかりとやっていきたいと思ってます。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

それでは予定の45分を超えておりますが。

◆市長

何かあと一つでも、よろしければ。

◆司会

ではテレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。すいません、お時間ない中。リニアについて1点だけお聞きしたいんですけども、先ほどボーリング調査について、県境から300メートルで一旦中止を要請している県の今の要請に対し、個人的には賛同していないとおっしゃってましたけれども、工学者としての難波さんの立場から、そうすると、

県の 300 メートルで中止してほしいという要請は、現状科学的、工学的な話し合いが県のほうでできていると思われませんか。

◆市長

そこはあまり中身を細かく見たわけではありませんので、県もそういうふうには科学的根拠に基づいて言ってるはずなんです。それがどういう根拠に基づいてるのかっていうところは、私自身はあまり確認をしていませんので、山梨の県内で行われる、しかもボーリング工事ですから、本坑工事じゃなくてボーリング工事ですから、それについてあまり私は今の静岡市長の立場で細かく見ておりませんので、今のご質問についてはちょっとコメントを控えさせていただきたいと思います。

◆テレビ静岡

今後、流域の一つとして、今回のボーリング調査の件以降も、もろもろ県との何となくの考え方の相違っているのは出てくると思うんですけども、いわゆる県の職員さんでもいいんですけど、そういう方たちとの連携体制といいますか、情報交換、現状こうなっているけれどもどう思いますかなどと、そういったものっているのは今行われていないのでしょうか。

◆市長

まだ十分行われていないですね。これから、前ご質問にちょっとお答えしましたけども、協議会ですね、中央新幹線の建設事業による、正確には静岡市中央新幹線建設事業影響評価協議会、これをどっかで開いてやっていかないといけないと思っておりますので、そのときには当然、委員の先生方との間でいろんな科学的な議論がされると思いますので、その段階で市としてもある程度、県との意見交換をした上で静岡市の考え方というのを示していかないといけないと思っておりますので、これから県と市の間で意見交換を進めていく、そろそろ始めたいなと思ってるような状況です。

◆司会

それでは、時間もまいりましたので本日の会見は以上とさせていただきます。次回は6月の6日、火曜日の11時からのご予定となっております。本日はありがとうございました。

◆市長

はい。ありがとうございました。